



This is our Communication on Progress
in implementing the principles of the
United Nations Global Compact.

We welcome feedback on its contents.



Communication on Progress

2011年度報告

対象期間 : 2011年1月～2011年12月

原田鋼業株式会社

2012年1月27日

◆目次



◆トップステートメント	p.3
◆グローバル・コンパクトの 10 原則	p.4
◆会社概要	p.5
◆2011年度活動の基本方針	p.6
◆10原則全般に関する啓蒙活動	p.7
◆人権・労働基準・腐敗防止分野に関する活動報告	p.8
◆環境分野に関する活動報告(1)	p.9
◆環境分野に関する活動報告(2)	p.10
◆その他の活動報告～東日本大震災の復旧・復興支援～	p.11

◆トップステートメント



国連の提唱する人権、労働、環境および腐敗防止に関する普遍的原則である『国連グローバル・コンパクト』に、当社は2011年1月から参加しています。

社内外での積極的なCSR活動の取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進し、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

2012年1月27日

代表取締役社長

原田寛太郎

◆グローバル・コンパクト10原則



人権	企業は、 原則1： 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則2： 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。
労働基準	企業は、 原則3： 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、 原則4： あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則5： 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則6： 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。
環境	企業は、 原則7： 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則8： 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則9： 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。
腐敗防止	企業は、 原則 10： 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

◆会社概要



会 社 名	原田鋼業株式会社
本 社	広島県福山市大門町 5 丁目 6-35 〒721-0926 TEL. 084-941-3111(代表) FAX. 084-941-1312
資 本 金	3,000 万円
創 業	昭和 20 年 10 月
設 立	昭和 41 年 8 月 6 日
年 商	47 億 8 千万円(45 期)
代 表 者	代表取締役会長 原田 弘人 代表取締役社長 原田 憲太郎
従業員数	100 名(グループ合計)
グループ	原田運輸倉庫株式会社 スチールプロ株式会社 有限会社クリーンライフ

◆2011年度活動の基本方針



国連グローバル・コンパクトへの支持を表明した初年度でもあり、関連するステークホルダーが、「10原則の持つ意味を理解すること」と「それに向けた改善活動に着手あるいはその準備段階に至ること」を目的とする。

特に、身近で、誰でもができる活動から着手し、その活動の輪が徐々に広がっていくような土壌を育てていく。

◆10原則全般に関する啓蒙活動

本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
世界共通の課題と実態、及びそれに対する世界的な取組みの紹介による意識付け	①国連ミレニアム開発目標報告2010を使っての勉強会開催(グループ各社のリーダークラス以上対象)	○ 飢餓や貧困等の現状を具体的な数値で捉えることで、漠然とした認識から、活動の必要性和参加の意義を理解させることができた。	全社員の理解度を深め、目的意識を持った活動ができるよう、セミナー等の勉強会を開催していく。
国連グローバル・コンパクト10原則の紹介とそれに基づいた活動への着手	②国連グローバル・コンパクトのリーフレットを使っての講習会開催(全従業員、仕入先対象) ③簡単なアンケートでの自己評価と改善課題の明確化(主要外注先対象)	△ 国連グローバル・コンパクト自体知らない者が殆どであったが、10原則持つ意味とそれに対する活動の必要性を理解させることはできた。但し、計画的な活動着手には至らず。	全従業員に対しては、具体的な目標値を設定した活動を促すとともに、啓蒙教育を継続実施していく。仕入先に対しては、啓蒙活動を継続していく。



①リーダークラスによる勉強会開催
世界の現状を学ぶ意味で、「国連ミレニアム開発目標報告2010」を使って、役員を中心とするリーダークラスを対象として行いました。

②本社、各支店での講習会開催
左の写真は、本社、各支店で行われた「国連グローバル・コンパクト」についての講習会の風景です。グローバル・コンパクトという言葉自体、初めて聞いた社員が殆どで、日本では当たり前の労働環境等が世界では当たり前ではないことに気付かされた社員も多くいたようです。まず、自分たちができることからという気持ちを植えつけることができたようです。

③主要外注先へのアンケート
国連グローバル・コンパクトの紹介と、「法令・社会規範遵守」、「人権尊重と労働環境」、「環境保全と製品の安全性確保」に関するアンケートを行いました。共により良い社会を作るための活動を進めるための準備と認識の共有には役立ったようです。

◆人権・労働基準・腐敗防止分野に関する活動報告



人権に関する活動				
本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
国籍、性別、障害者などに対する差別、偏見の排除	性別による職務、役職への偏見排除	○	本年度は、2名の女性が主任昇進を果たすことができた。	継続して活動を進め、職種に対する偏見排除を目指し、環境整備を含めた改善を進めいく

労働基準に関する活動				
本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
職能レベルの基準作り	①入社年数に応じた職能レベルの基準設定と、必要な資格習得の教育計画作成。	△	社内研修の教育計画は作成できたが、外部機関での研修を含めた、資格まで取り込むに至らず。	継続して計画の作成とそれに基づく資格取得を進めていく。
働きやすい環境の整備	①中小企業子育て支援助成金の導入。	△	本年度該当者がいないため、制度導入に至らず。	他の助成金を含め、申請手続きの社内規定化に取り込んでいく。

腐敗防止に関する活動				
本年度の活動目標・内容		結果と評価		来年度の活動目標・内容
官公庁等の入札に関する談合への関与禁止	①入札への積極的参加の姿勢を示すことにより、業界内での不当な価格操作を排除する。	○	入札物件に対して、直接応札できる案件は少なかったが、社内の意識付けと業界の牽制には役立った。	継続して活動を進めていく。

◆環境分野に関する活動報告(1)

本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
電力5%削減	①クールビズ、ウォームビズによる空調電力の削減 ②無駄な照明消灯、作業改善による装置の待機時間削減	△ 加工量は2010年比で102%と微増したとは言え、電力の削減は1.5%に止まり、目標を達成できなかった。	継続して節電活動を進めていく。
梱包用木材のリサイクル促進	③継続納入先からの梱包用木材の回収と再利用 ④古くなった梱包材の解体と再利用	○ リサイクルに協力していただける客先を5社に増すことができ、材木の使用量も2010年度比で10.5%削減することができた。	数値目標を掲げた上での活動を進めて行く。

＜電力5%削減＞

①クールビズ＆ウォームビズ

1)朝夕は、網戸で風を入れ、冷房の使用削減。

2)扇風機で暖気、冷気を循環させ、冷暖房の効率アップ

3)お客様にもご理解をいただくため、エアコンの設定温度の案内を。
夏は26℃、冬は22℃

②無駄な電力削減

④昼休みは、装置の主電源はもとより、不要な電灯も消灯。

＜梱包用木材のリサイクル＞

③客先より定期的に、梱包に使用した木材(スキッド)を回収しています。

④壊れたり、古くなった物は、解体し、使える木材は仕分けして、再利用のため保管しています。

◎回収したものは、補修したり、再加工して保管し、次に納品する際に使用します。

①-1 暑い時は網戸で風を



①-2 風の循環



①-3 お客様にもアピール



②-1 事務所の消灯



②-1 工場の消灯



③梱包用木材の回収



④-1 解体した梱包用木材



④-2 再利用のため仕分け



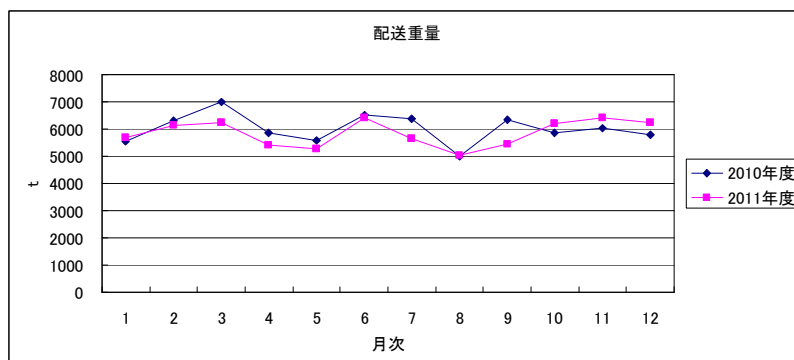
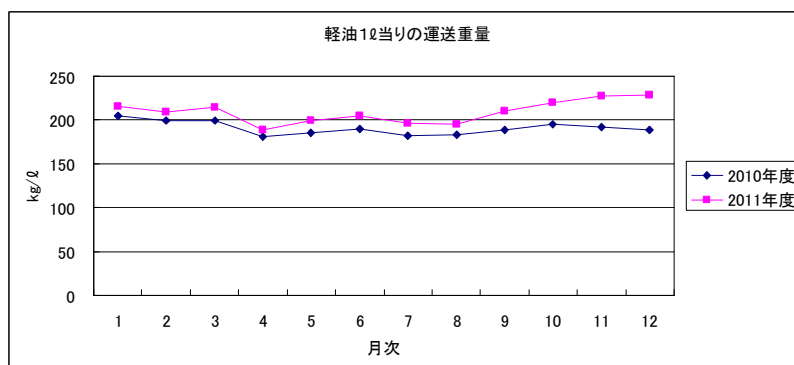
◎補修しての再利用



◆環境分野に関する活動報告(2)



本年度の活動目標・内容		結果と評価	来年度の活動目標・内容
輸送効率のアップ 軽油1ℓ当りの配送重量 2010年度比10%アップ	①自社製品以外の同一方向への配送を受注することで、合い積みでの配送の促進。 ②午前、午後での配車見直しによる空荷での配送削減 ③エコ運転の勉強会開催と添乗指導	○ 東日本大震災の影響等の外的環境を受けたが、年平均で9.4%と、目標値に近い成績を残すことができた。	本年度の経験を生かし、社会情勢の変化にも対応できる仕組み作りを目指す。



◎東日本大震災の影響について

2011年度は、東日本大震災の影響もあり、年間総配送重量は、2010年度比で97%の結果であった。特に、震災後5月～6月の間は、前年比90%を切る月もあり、また、電力需要分散化を目的とした自動車関連産業の土日操業も行われた。

◎社会情勢の変化に対応するために取られた方策と効果

年初、予期していなかった環境の変化に対応するため、①～③の活動に加え、

- 1) 運休車両の設定と配送要員の積込作業への配置変更
→ 1車当りの配送重量の確保と荷積み作業の迅速化
- 2) 納入先への納品日や時刻の調整依頼
→ 最短移動での配送ルート設定

の方策を取ることで、無駄な走行を防ぎ、日々の配送効率低下に歯止めをかけることができた。

東日本大震災の復旧・復興支援

○緊急支援物資

震災風景

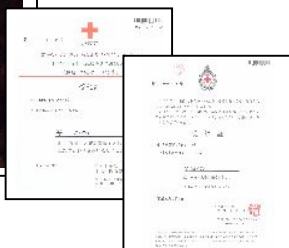
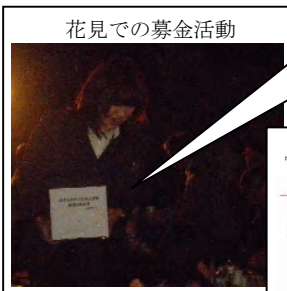


支援物資の一例



○募金活動

花見での募金活動



2011年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、日本における観測史上最大の規模のマグニチュード9.0を記録しました。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及びました。この地震により、場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.5mにも上る大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。

地震発生時、当社の社長は羽田モノレールでの移動中でした。震度5強の揺れだけでも初めての経験なのに、場所はモノレールの軌道上。生きた心地がしなかったとの話です。当社には、足立区に東京支店がありますが、幸いにも若干の落下物程度で、大きな被害はなく済んでおります。

そんな中、3月13日の日曜日、仙台青年会議所からの応援要請のメールが届きました。今、現地で必要とされているもの知らせる大切なメールです。

翌14日は朝から、会社を上げての支援物資集めとなりました。如何に早く物資を送れるかが重要です。しかし、短期間でこれだけの物資が集められるか。また、きちんと送ることができるのか。と不安材料は山ほどありました。ここで力を発揮していただいたのが、いつもお世話になっている取引先や運送会社の皆様でした。

14日夕刻には、要望されたもの全てとはいきませんが、

バール:100 スコップ:300 ハンマー:18 つるはし:210 ほうき:100

ジャッキ:19 一輪車:150 ゴーグル:240

とリストにあった品物の7割以上を集めることができ、その日の内に出荷。翌15日未明には、埼玉県支援物資受入窓口に着。17日には、無事、仙台に送り届けることができました。

当社では、この震災に当って、約500万円の復興資器材並びに義捐金の支援をさせて頂いております。これらの支援ができたもの、取引先を初めとする皆様のご協力のお陰と感謝しております。

また、会社とは別に、社員の自発的な募金活動も行ってきました。

まず、最初に行ったのは、インターネット上のサイトでのポイント募金への参加でした。余っているポイントと言えど馬鹿にならず、全員で2万円近くになったようです。

以降、社内の花見大会、日本卓球リーグのホームマッチ等、行事の都度に募金箱を設置してきました。様々な方のご協力もあり、その総額は6万円近くになっています。

金額としては僅かなものですが、微力ながら一人一人が支援を続けていく姿勢を大切にしていきたいと思います。